



## 2012-2013 年度 第 15 回例会 宇都宮南ロータリークラブ会報

会長：荒井健次 幹事：小林裕 会報委員長：田中正夫  
 例会場及び例会日：ホテルニューイタヤ《水曜 12：30》  
 事務所：宇都宮市大通り 2-4-6（ホテルニューイタヤ）  
 TEL：028 - 635 - 5511（ホテルニューイタヤ）



通算 第 1503 号

2012 年 10 月 10 日



会員数 45 名 出席 28 名



司 会 佐々木隆 S. A. A

§ ローターソング「奉仕の理想」



ビジター紹介 坂井俊司 親睦・家族委員長

§ 藤井達哉 様 下野新聞社 編集局運動部 記者（卓話者）



会長挨拶 荒井健次 会長

皆さんこんにちは。

先週はガバナー公式訪問でした。午前中 3 名での懇談会は和やかなうちに終了できました。又、例会終了後の炉辺会議も皆様から質疑応答戴き、ありがとうございました。

亙理ロータリークラブの件で、誤解があった事に対してお話を戴きましたが、当南クラブとして納得しても、相手のクラブが理解して戴かないと先に行動が出来ません。9 日にガバナーより亙理 RC 板橋会長へ連絡をし、当南クラブが中心となり支援したことを伝え、ご理解戴きました。

公式訪問が終わりましたので、今後は「各委員会活動」に専念できると思います。今月は職業奉仕・米山月間ですので、担当委員会の方々よろしくお願い致します。今月も会員増強に力を入れ、10・11 月入会予定者リストをお願い致します。10 月 14 日地区の野球大会勝利に向け、頑張ってください。



幹事報告 小林 裕 幹事

§ ガバナー事務所より、第 8・9 グループ IM のご案内が届いております。

§ 足利西 RC 例会場変更のお知らせが届いております。

§ ローター財団「未来の夢」が届いております。

§ 本日例会終了後理事役員会を開催致します。

**社会奉仕委員会報告 藤井康夫 委員長**

§ 10月20日(土)移動例会として、スペシャルオリンピックス日本で制作した映画「幸せの太鼓を響かせて」の鑑賞会を社会奉仕委員会・新世代委員会・SAA合同で開催致します。詳細は後程、FAXにてお知らせ致します。パンフレットをレターボックスに配布致しました。

**野球部報告 塩田 潔 監督**

§ 10月14日(日) 第2550地区 親善野球大会が県総合運動公園に於いて開催されます。野球部員は午前7:30集合です。特に今年度は6月末より毎週木曜日に練習と試合を行って参りました。皆様の応援よろしくお願い致します。

**スマイルボックス委員会 磯貝 太 委員**

- § 荒井健次 会長 野球大会頑張ってください。お祝いできるよう祈っています。
- § 小林 裕 幹事 野球部の一員として心から勝利を願う。秋ですねえ～
- § 仲田俊夫 会員 日曜日の野球大会是非優勝を！
- § 村上芳弘 会員 いよいよ第2550地区野球大会、ガンバロー日本 ガンバロー宇都宮南ロータリー野球部。皆様の応援よろしくお祈いします。
- § 塩田 潔 会員 10月14日に第2550地区の野球大会が、県総合運動公園で開催されます。野球部一同頑張りますので、皆様の応援よろしくお祈い致します。今日はご指導の程、よろしくお祈いします。
- § 嶋田辰雄 会員 10月14日(日)野球大会が県営球場で行われます。ぜひ、応援よろしくお祈いします。
- § 藤島 拓 会員 今週、日曜日の14日に西川田の運動公園野球場で野球大会があります！！皆様の応援よろしくお祈い致します。
- § 大野俊男 会員 10月14日の野球大会。優勝目指して頑張ってください。
- § 青木克浩 会員 いよいよ今度の日曜日が野球の本大会です。お時間のある方は総合グラウンドまで応援よろしくお祈い致します。
- § 酒澤伸二 会員 昨日の練習試合はお疲れ様でした。本大会へ向けて頑張りましょう。
- § 喜内敏夫 会員 10月3日は東京出張の為ガバナー公式訪問を欠席してすみません。
- § 荻原英美 会員 今月でやっと、関西学院のオープンカレッジ、会計講座完了しました。これで毎月のレポート提出から解放されます。
- § 坂井俊司 会員 先週は、仕事でガバナー公式訪問欠席してしまい、申し訳ございませんでした。
- § 小保方信聴 会員 妻の誕生日にお花をお届けありがとうございました。菅野会員が届けてくれましたので、特に喜んでおりました。私事になりますが、お盆からお彼岸、母の年回と、10月8日まで今年は特に多忙でした。欠席続きで申し訳なく思っております。
- § 山本敬三 会員 妻の誕生日祝、菅野様わざわざお届け戴き、ありがとうございました。
- § 磯貝 太 会員 昨日の野球試合お疲れ様でした。久々の野球らしい試合で最高でした。10月14日本大会も頑張りましょう。

多くの会員の皆様にご協力戴きありがとうございました。 今週の金額 16,000円



## 外部卓話

藤井 達哉 様  
下野新聞社 編集局運動部 記者

## 「私が見たロンドンオリンピック」



私は7月25日から8月14日までロンドンに滞在し、ロンドンオリンピック取材しました。私は入社10年目、広告局の営業部で営業を2年間、編集局地域報道部の佐野支局で5年間を過ごし、運動部3年目でオリンピックに派遣されることになりました。下野新聞社は1998年の長野オリンピックから記者派遣をはじめ、これまでシドニー、ソルトレーク、アテネ、北京に派遣、そして今回のロンドンとなりました。活動拠点は陸上競技場などがあるオリンピック公園内に設置された、3階建ての「メイン・プレス・センター」(MPC)で、ここには世界中から通信社、新聞社を中心とした記者が集まります。テレビ局など映像系のメディアは隣り合う5階建ての「インターナショナル・ブロードキャスティング・センター」を拠点に取材活動を行います。

下野新聞社からの記者の派遣は私1人ですが、MPC内での取材ブースは、全国の地方紙7社、青森の東奥日報社、秋田の秋田魁新聞社、岩手の岩手日報社、福島の福島民報社、福井の福井新聞社、徳島の徳島新聞社とともに1つのブースを借り、共用していました。

オリンピックでは世界中のトップアスリートが世界一を競うわけですが、私の取材の対象は当然栃木県出身の選手たちです。ロンドンオリンピックには栃木県から7競技に9選手が出場しました。作新学院3年生の競泳・萩野公介選手、柔道男子66kg級の小山市出身、海老沼匡選手、卓球女子団体の鹿沼市出身、平野早矢香選手、サッカー女子の宇都宮市出身、安藤梢選手と鮫島彩選手、陸上女子やり投げの上三川町出身、海老原有希選手、ホッケー女子の宇都宮市出身、柴田あかね選手と日光市出身の阿久津智恵選手、レスリング男子グレコローマンスタイル96kg級の佐野市出身、齋川哲克選手の計9人です。各選手で印象的だった出来事を振り返りたいと思います。

萩野選手は400メートル個人メドレーで日本競泳界史上初のメダル、男子高校生としても56年ぶりという大快挙を達成しました。とても17歳とは思えないほど大人びた選手です。取材の受け答えの様子を見ても、高校生のある意味幼さが全くありません。各レースを振り返るときも詳細に、冷静に、そして具体的にコメントを語ってくれます。特にすごいと思ったのは萩野選手が自分の調子をほぼ完全に把握していることです。次のレースの目標タイムや、「背泳ぎと自由形はもっと早く泳げる」などと語ると、必ず次のレースでその通りのタイムが、ほぼ確実に出ます。萩野選手は4月の日本選手権でロンドンの出場権をつかみましたが、その時にオリンピックでの400メートル個人メドレーのメダルラインは「4分8秒台」と言っていました。本番ではアメリカの超有名選手、マイケル・フェルプスに競り勝ったわけですが、萩野選手のタイムは4分8秒94、フェルプスは4分9秒28の4位。すばらしい読みだと思大変驚きました。4年後のリオデジャネイロオリンピックでは是非金メダルを取ってほしいものです。

海老沼選手は、まさにこれぞ柔道家という性格です。子供のころから柔道一直線。金メダリストを多く輩出した柔道の私塾、講道学舎の出身です。あまり口数は多くなく、派手なことや受けのいいことは言いません。静かに、強い闘志を打ちに秘めて戦うタイプでしょうか。本番では準々決勝で、旗判定が一度下された後に、覆されて勝利という「誤審」問題に揺れました。目の前で見えていたのですが、自分自身も判定への疑問とともに、判定が覆ったことに「こんなこともあるのだな」と大変驚きました。

結果的に海老沼選手は銅メダルを獲得。金メダルを目指していた本人としては満足行かなかったのだと思います。表彰式でもただの一度も笑顔を見せませんでした。本当に自分に厳しい選手なのだと感じました。柔道という日本のお家芸への期待を正面から受け止め、金メダルだけに全てを懸けてきた責任感が強かったのだと思います。目標こそかないませんでした、銅メダルは大変立派な結果です。海老沼選手も社会人1年目の22歳と若いので、ぜひ4年後に期待したいと思います。

平野選手も団体で銀メダルを獲得しましたが、これも大変価値の重いものです。1988年のソウルオリンピックで卓球は正式種目となりましたが、以来日本は男女のシングルス、ダブルス、団体全ての種目で一度もメダルに手が届いていませんでした。その中で、天才卓球少女と呼ばれた福原愛選手、「愛ちゃん2世」と呼ばれた石川佳純選手とともに、本番で大活躍し、史上初のメダルをもたらしました。試合内容はもちろん、平野選手のすばらしいのは、ベテランと呼ばれる年齢に近づいてもその謙虚で、ひたむきな姿勢です。平野選手は、全日本選手権を5回優勝しており、実績から言えば福原選手や石川選手よりも上です。しかし、世間の人気や注目はどちらかというと福原選手や石川選手に集まります。平野選手はそのことに嫌な顔一つせず、取材では先に2人をたてて、自分は後から取材を受けたりします。2人に対して「ライバル意識は全くない」と言います。「常に2人から学んで、自分が吸収できるものを探している」という謙虚な姿勢、どこまでも自分が強くなりたいという強い意志が平野選手を成長させたのだと思います。

安藤選手は、宇都宮女子高校2年生で日本代表入りしたという経歴を持ちます。当時はまだ「なでしこジャパン」の名称もなく、世間からの注目もありません。その時代から、ずっと第一線で戦ってきました。まさに日本女子サッカー界をけん引してきた存在です。ロンドンオリンピックでは、安藤選手はなかなか出場機会がありませんでした。悔しかったと思います。ただ、安藤選手は常に口にするのは「チームが勝つことが全て」ということです。自分が試合に出ていようと出てまいと、安藤選手はチームの勝利のために自分ができることをし続けるというだけなのです。さまざまな自分個人の思いは二の次にして、常にチームのことを考える。安藤選手のようなベテランの存在が、なでしこジャパンが銀メダルを獲得できた一つの要因だと思います。

鮫島選手も、決勝のアメリカ戦のあとの取材で、今回あまり調子がよくなかったと正直な思いを語ってくれました。ただ、鮫島選手は東日本大震災のときに、東京電力に所属していました。出身の高校は宮城県です。そういう関係もあって、ご家族も含め大変な注目を浴び、取材を受けたようです。取材は福島県の被災者とかからめた内容が当然増えます。純粹にただサッカーだけに集中するという環境は難しかったと思います。その中でアメリカ、フランスへとチームを移籍しながら、被災者を勇気づけるという、いわば大きな宿命を背負って戦っていたのだと思います。取材でもテレビなどで映るとおりの明るく、人気者のキャラクターのままの選手です。オリンピックという最高の舞台で獲得した銀メダルには大きな価値があると思います。

そのほかの県勢の選手にも話したいことはあるのですが、時間が来たので終わります。ロンドンオリンピックに出場した選手の多くは4年後のリオデジャネイロオリンピックでも活躍が期待できる選手です。ぜひみなさまも応援してもらいたいと思います。



## 10月のプログラム

- 10月3日(水) ガバナー公式訪問 鈴木 宏ガバナー  
 10日(水) 外部卓話 下野新聞 藤井記者「私が見たロンドンオリンピック」  
 17日(水) 9月23日 IM 振替休会  
 20日(土) 移動例会 スペシャルオリンピックス制作映画鑑賞  
 「幸せの太鼓を響かせて」  
 24日(水) 米山アンケートについて 村上会員・田島会員  
 31日(水) 新入会員卓話 菊池会員・杉本会員

## 次回例会

出席報告 山本敬三 委員

会員数 45名 前々回 9月26日

出席数 28名 訂正率 100%

欠席数 17名

出席率 70.00%

10月17日(水) 移動例会振替休会

20日(日) 移動例会

スペシャルオリンピックス